富士川の内装仕上げ下地薄塗り工法

ＳＳ工法
施工マニュアル

技－202609－002

2026年9月

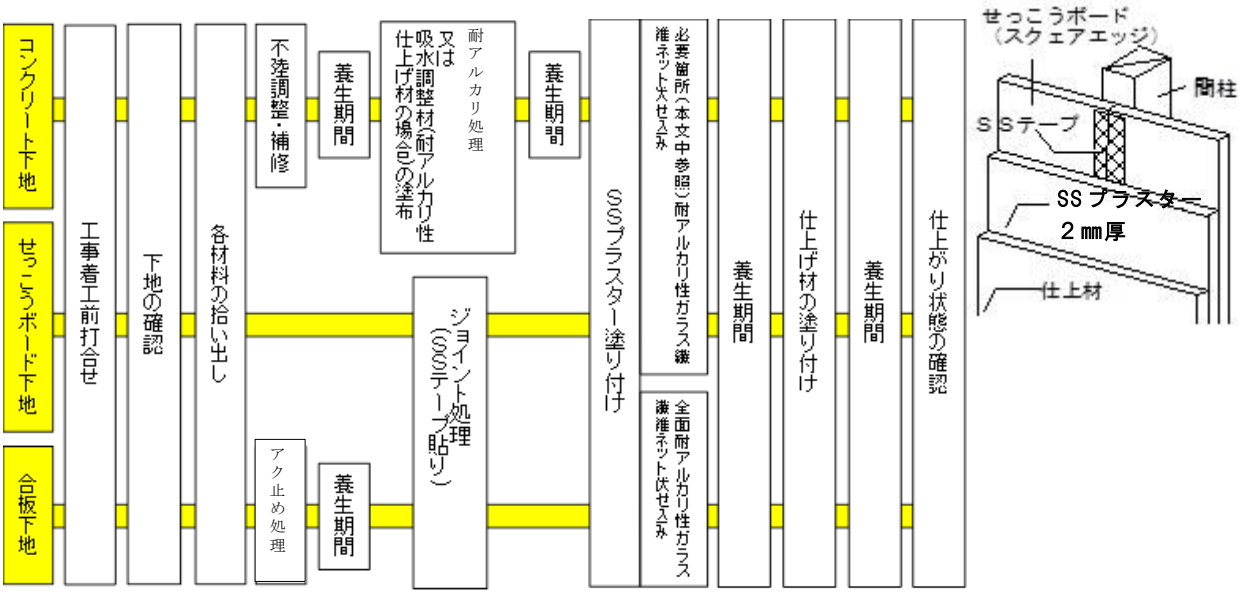
富士川建材工業株式会社

1. 目的

この施工マニュアルは、ＳＳ工法（せっこうボード下地塗り壁仕上げ、薄塗り下地調整工法）を施工する場合の、工事施工要領及び施工上の注意事項をまとめたものです。施工にあたっては、このマニュアルを遵守し、より高品質なものとなるよう十分注意してください。

2. 施工の概要

＜施工のフローチャート＞



※基本的にはせっこうボード下地用の工法ですが、コンクリート下地や合板にも対応できます。

3. 材料道具類

○ＳＳプラスター

１袋の正味質量	２０kg　防湿紙袋入り
標準塗厚（塗付量）	２㎜
１袋標準塗上面積	２㎜厚　約１０㎡
標準加水量	９～１０Ｌ
可使時間	混練り後　１時間
始発時間	約１時間３０分
終結時間	約３時間
防火認定	NM-8574 不燃材料、QM-9814 準不燃材料、 RM-9363 難燃材料 仕上材との組み合わせによる 詳細はお問い合わせください



○富士川シーレックス又は富士川シーレックス＃５０
エチレン酢酸ビニル系合成樹脂エマルション
１８kg 缶入り
下地の吸水調整に使用



○アク止め材
市販品をご利用ください。

○アリスグラスファイバーネット
耐アルカリ性ガラス繊維ネット　１５０ｇ／㎡

２種類のサイズがあります。
１ｍ幅×５０ｍ／巻
１６ｃｍ幅×５０ｍ／巻



○スーパークラックノンネット
耐アルカリ性ガラス繊維ネット　８０ｇ／㎡
１ｍ幅×５０ｍ／巻

○ＳＳテープ
ガラス繊維メッシュ粘着剤付ジョイントテープ
５０ｍｍ幅×１５３ｍ／巻



○その他
電動攪拌機・テンタル・こて類・電源・馬・養生材等

4．下地工法（前工程）

①せっこうボード

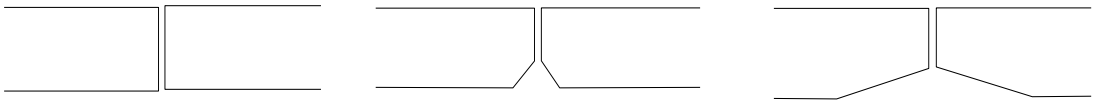
○種類

・原則として、ＪＩＳＡ６９０１に規定されたせっこうボードＧＢ－Ｒで厚さ 12.5 ㎜以上かつ、側面形状がスクエアエッジ（突き付け）のものを使用してください。

・耐水ボード（シージングせっこうボード）は使用しないでください。天井部は２重張りをおすすめします。

・レーヴ内装用、白い壁、SS コートなどで押さえ仕上げとする場合、せっこうボードのジョイントの線が浮いて出る可能性があります。

ボードの側面形状



（スクエアエッジ）　（ベベルエッジ）　（テーパーエッジ）

◎（推奨）　△　△

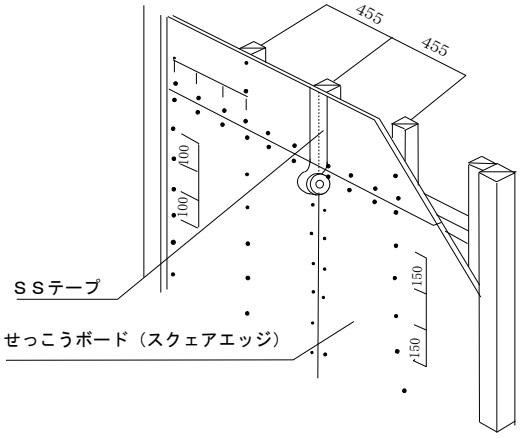
○下地　及び　留め付け方法

１）木軸下地

・ボード受け材（木軸下地）

455 ㎜ピッチで縦横に受け材を入れボードの継ぎ手及び４周と中間部で固定できるようにします。

厚さ 12.5 ㎜以上のボード又は２重張り（２枚張り※）の場合は、横の受け材は継ぎ手部分のみとすることが出来ますが、この場合でも、全て４５５ピッチで縦横に受け材を入れることで安定性と耐久性が向上します。



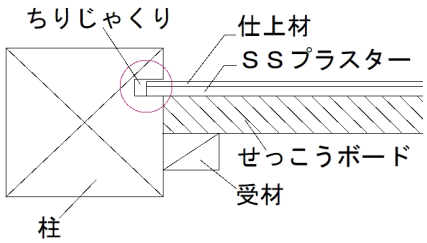
・せっこうボードの固定（木軸下地）

せっこうボード用ビス（木軸用の防錆処理品）全長 28mm を標準とし、留め付け間隔は周辺部 100mm 程度、中間部 150mm 程度とします。

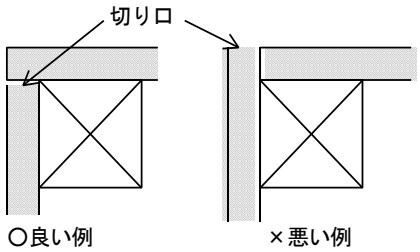
※ひび割れ防止効果がある２重張りとする場合は、必ず下張りのせっこうボードとジョイントの位置をずらし、接着剤を全面に塗り付け、ステープルなどで固定してください。

注意事項

○木の柱に接する部分はチリ切れを防止するため、ちりじゃくりを入れてください。

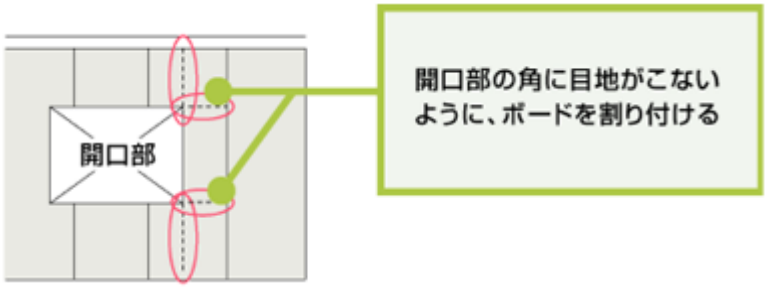


○出隅部分等の壁面にはボードの切り口が出ないように張ってください。

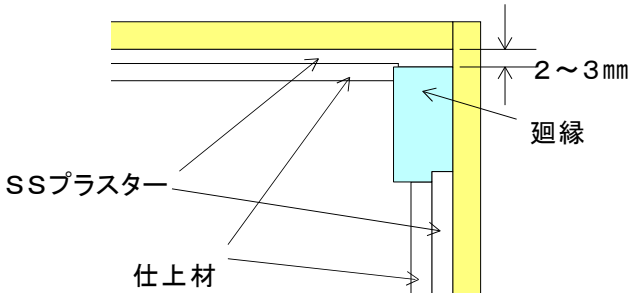


せっこうボードの出隅部分の張り方

○開口部端部にボードのジョイントを作らないでください。



○天井との取り合い部分には見切り又は廻り縁等の使用を原則としてください。特に、天井と壁面の両面に異なる色を塗る場合は必ず入れてください。
見切り、廻り縁は、ＳＳプラスター及び仕上げ材の塗厚を考慮した形状のものを使用してください。



天井壁取り合い例（廻り縁を使用する場合）

２）コンクリート下地のせっこうボード直張り工法

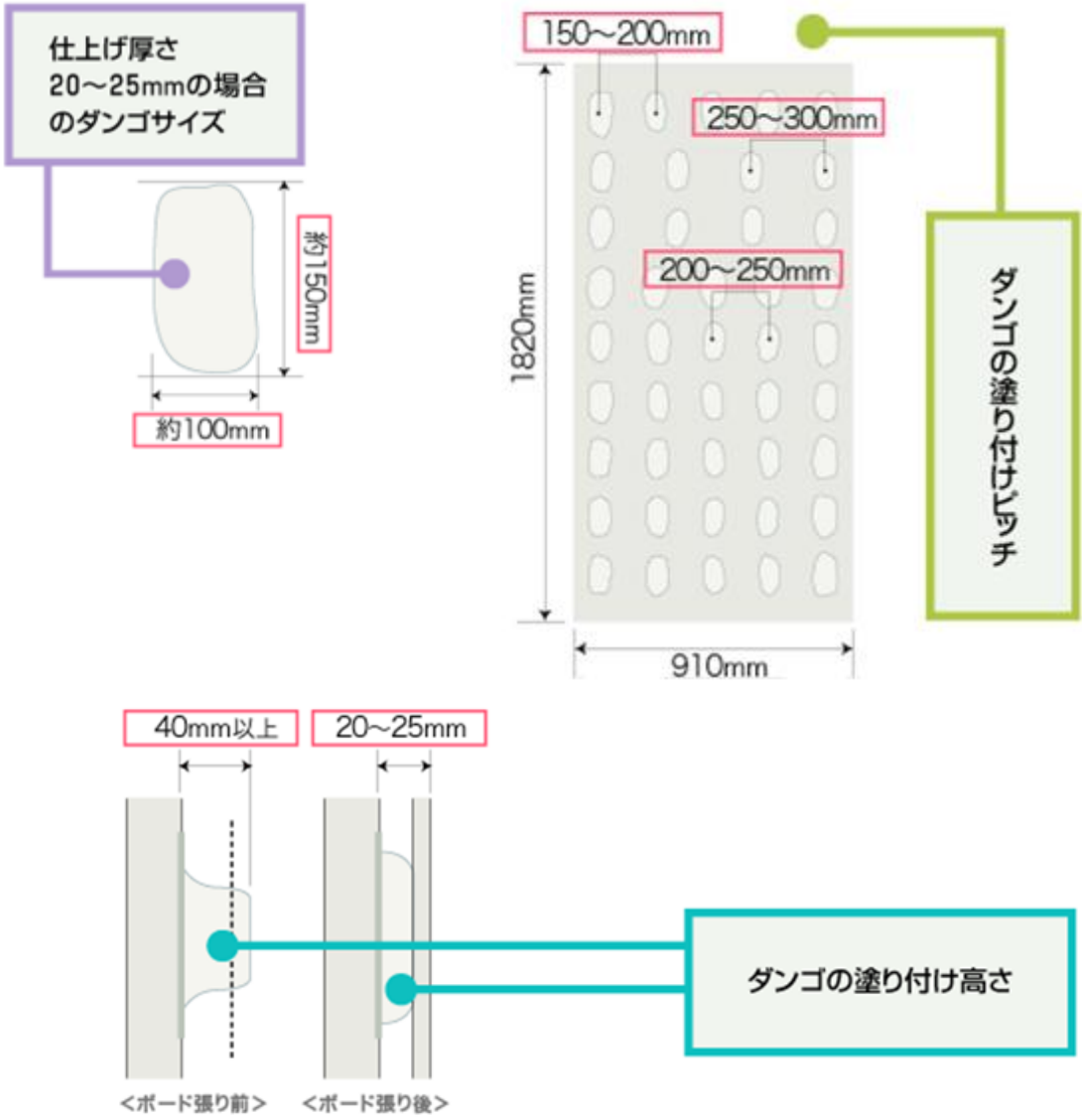
せっこう系接着材による直張工法（ＧＬ工法）

コンクリート下地に吸水調整材を塗布し、接着材を下こすりの後、コテ圧をかけて塗り付けてください。

接着材の間隔は周辺部 150 ㎜～200 ㎜、中間部は　床上 1.2m 以下の部分は 200～250 ㎜、床上 1.2m を超える部分は 250～300 ㎜としてください。

標準的なダンゴのサイズは横 100 ㎜、縦 150 ㎜とし、盛り上げ高さは仕上げ厚高さの２倍以上とします。

ＳＳプラスターの表層に耐アルカリ性ガラス繊維ネット(アリスグラスファイバーネット等)を全面伏せ込んでください。（４．ＳＳプラスターの施工の項参照）



②コンクリート

②－１下地サンダー掛け、サビ止め処理

造作工事を着手する前に施工してください。

木クズ、ベニアのささくれ等は除去する。脆弱部分凸部はサンダー掛けしてください。塗り面に残留する金属（番線，釘等）など錆の出るものは突出部を除去しさらに防錆処理をしてください。

②－２下地補修

造作工事終了後に施工してください。フジリペアシリーズなどで平たんに下地調整してください。

※補修後は充分乾燥期間をとってください。

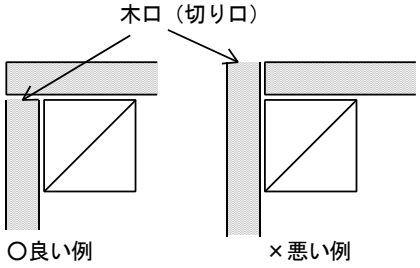
③合板

○一般事項はせっこうボードと共通としてください。

○９㎜厚以上の合板を使用してください。

○ビスはステンレス又は亜鉛メッキしたものを使用し、あばれに留意し、充分固定してください。

○出隅部分等の壁面に合板の木口（切り口）が出ないように張ってください。



合板の出隅部分等の張り方

④その他

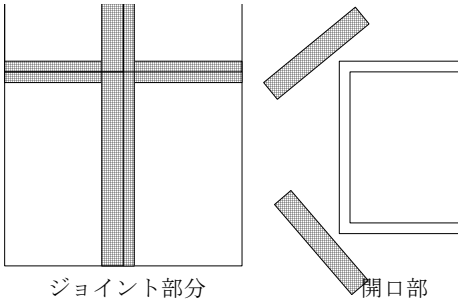
○上記以外の下地材の場合は当社にご相談ください。

5. 下地処理（以下左官工程）

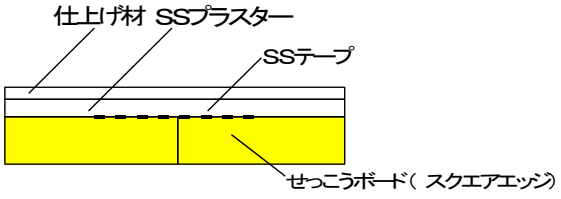
Ａ．下地別処理

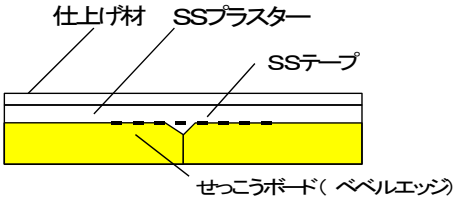
①せっこうボード

○ジョイント部分にはＳＳテープを張ってください。
また、ドア・窓枠の開口部の隅に 30cm 程度にカットしたＳＳテープを貼ってください。

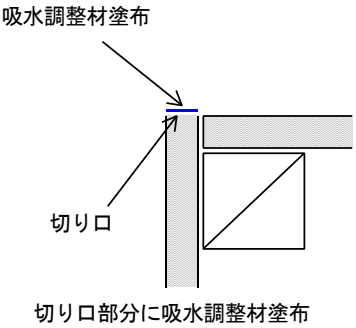


○ベベルエッジボード（Ｖカットボード）等を使用の場合でも同様にジョイント部分にＳＳテープを張ってください。

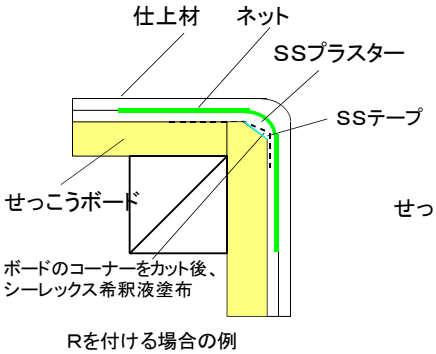


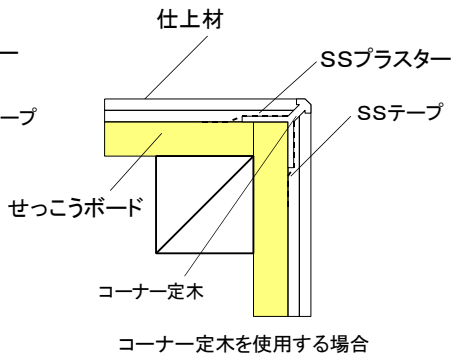


○せっこうボードの切り口が表面に出た場合は吸水調整材（富士川シーレックス５倍希釈液）を塗布し、乾燥後、次工程に入ります。あまり、周辺まで広く塗布しないように注意してください。

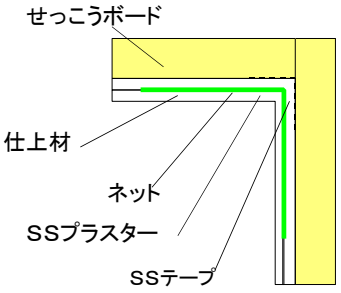


○入隅、出隅部分はＳＳプラスターに１６cm 幅程度の耐アルカリ性ガラス繊維ネット(アリスグラスファイバーネット等)を廻し張りにして伏せ込んでください。



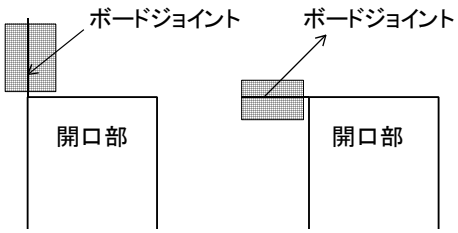


出隅



入隅

○開口部端部にボードのジョイントがある場合（ジョイントは作らないことが原則であるが、）はＳＳプラスターに１６㎝幅程度の耐アルカリ性ガラス繊維ネット(アリスグラスファイバーネット等)を伏せ込んでください。



②コンクリート・モルタル

仕上げ材の種類により処理が変わります。

１）仕上げ材が一般仕上げの場合：

例：京壁、

パレボニート、ネオナチュール、レーヴエコ(いずれもわらすさ入りタイプ)

→仕上材の水分が移行し、コンクリートのアルカリを引っ張ってくることがあります。アルカリ性の影響で仕上材が変色する可能性が有ります。アク止め材の塗布で防止できる事例があります。事前にご確認ください。

アルカリ対策後、ＳＳプラスターを施工してください。

２）仕上げ材がアルカリ性仕上げの場合：

例　レーヴ内装用、白い壁、ＳＳコート

→吸水調整材を塗布

○全面に吸水調整材を 3 倍に希釈したものをローラー又は刷毛で塗り残しのないように２回塗布します。(１回目が水引後、２回目を塗布）合計塗布量 150g／㎡

○乾燥（気温 20℃、湿度 65％で３時間程度）後、ＳＳプラスターを施工してください。

③合板下地

○アク止め処理を行ってください。

○乾燥（気温 20℃、湿度 65％で３時間程度）後、ＳＳプラスターを施工してください。

○合板と連続したせっこうボード面は水引を均一にするため、全面吸水調整材（富士川シーレックス５倍希釈液）をローラー又は刷毛で２回塗布してください。

○ジョイント部入隅出隅部分ドア・窓枠の開口部のＳＳテープ処理はせっこうボードと同様に行ってください。

○ＳＳプラスター施工時（６．）に耐アルカリ性ガラス繊維ネット(アリスグラスファイバーネット等)を全面ＳＳプラスターに伏せ込んでください。（下項に記述）

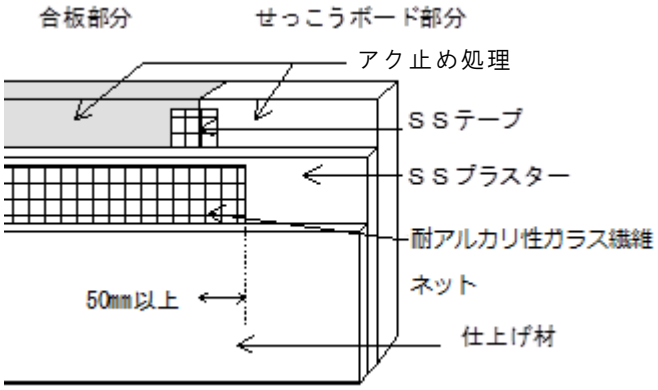
Ｂ．共通処理

①異種下地ジョイントの処理

挙動の違いがある場合、クラックが発生します。

コンクリートとせっこうボード及び合板等との異種下地のジョイント部分には目地等で、縁を切ることを原則としてください。

縁を切らない場合、ＳＳプラスター施工時（６．）に耐アルカリ性ガラス繊維ネット(アリスグラスファイバーネット等)を伏せ込むことによりクラックを低減する事ができます。



合板とせっこうボードの取り合い（目地を取らない場合）

6．SSプラスターの施工

A.施工方法

①練り混ぜ

きれいなステンレス・プラスチックの容器に標準加水量（９～１０Ｌ）の９割の水を入れます。それにＳＳプラスターを加え攪拌機で良く練り混ぜ、残りの水を徐々に加え、作業しやすい状態にしてください。

１回の練り量は必ず６０分以内に使い切る量とし、練り足しは絶対に避けてください。材料を使い切って、容器を水洗いしてから、次の材料を練り混ぜてください。

②塗り付け

○全面にＳＳプラスターを１㎜厚程度下ごすりし、追っかけで１㎜厚程度塗り付けます。（合計塗り厚２㎜）水引具合を見てコテで押さえてください。せっこうボードのジョイント部分はジョイント方向に押さえ、平坦に押さえてください。

○ベベルエッジボード（Ｖカットボード）を使用する場合は、最初にＳＳテープを貼ったジョイント部分にＳＳプラスターをＳＳテープの上から十分充填するように塗り付け、追っかけ全面１㎜厚程度下ごすりをします。以後はスクエアエッジボードの場合と同様ですが、ジョイント部分にムラが出やすいので、注意してジョイント方向に押さえてください。

○耐アルカリ性ガラス繊維ネット(アリスグラスファイバーネット等)を伏せ込む場合（→B.）は、ＳＳプラスターを１㎜厚程度下ごすりし、直ちにあらかじめ裁断しておいた耐アルカリ性ガラス繊維ネットを張り付けて押さえ、直ちに１㎜厚程

度塗り付け、水引具合を見てコテで押さえてください。せっこうボードのジョイント部分はジョイント方向に押さえ、平坦に押さえてください。ネットの継ぎ目は５０㎜以上重ねて下さい。

③仕上げ材施工までの養生期間

冬期　中３日以上、通常期　中２日以上を標準とし、完全乾燥後仕上げ材の施工を行います。

B.その他

①耐アルカリ性ガラス繊維ネット(アリスグラスファイバーネット等)を伏せ込む部位

ひび割れ防止低減のため、次の部位に耐アルカリ性ガラス繊維ネットを伏せ込んでください。

耐アルカリ性ガラス繊維ネット伏せ込み部位

	伏せ込み部位
全面	コンクリート下地のせっこうボード直張り工法（せっこう系接着剤による直張工法（ＧＬ工法）の場合）
	合板下地
部分	開口部端部にボード（下地面材）のジョイントがある場合
	異種下地間（目地等で縁を切らない場合）（５．Ｂ．①異種下地ジョイントの処理参照）
	吹き抜けのある大壁の胴差部分のボードの継ぎ目、目地、幕板等で縁を切らない場合（７．注意事項**＜設計上の注意＞参照**）
	入隅、出隅（コーナー定木を使用しない場合）
その他、出入り口周囲等、衝撃等によるひび割れ発生が予想される部位	

②下地がＭクロスの場合の処理方法

下地面材がＭクロスの場合、SS プラスターは接着しません。そのため、ＳＳプラスター１袋に対して、富士川シーレックスを２ｋｇ混入した材料で下ごすりを行ってください。下ごすり後追っかけ塗りを行う材料には、富士川シーレックスを入れなくても良いです。

なお、富士川シーレックスを混入した場合は、不燃認定適用外です。

7. 注意事項

＜設計上の注意＞

○吹き抜けのある大壁の場合、胴差部分にひび割れが発生する場合があるので、幕板を入れるなどの設計上の配慮をおすすめします。（幕板を入れない場合は下塗り材（ＳＳプラスター）にネット補強で対応しますが、より完璧な方法としては幕板をいれることをおすすめします。）

○水のあたるところ、常時高湿度の場所への施工は避けてください。

＜使用上の注意＞

○墨出しの墨は黒で行ってください。朱で墨出しを行うと仕上げ材の表面ににじみ出ることがあります。また、粉末タイプの墨は使用しないでください。

○気温５℃以下での施工は避けてください。

○工事中は周辺のほかの部材及び仕上げ面を汚損しないよう養生テープにて養生を行ってください。

○杉材等の柱についてはアクがでますので、特に念入りに養生をしてください。

○ＳＳプラスター施工中硬化するまでは、日射通風などによる急乾燥を避け、硬化後は風通しを良くし、乾燥を早めてください。

○硬化時間に影響しますので、練り水・容器・攪拌機などはきれいなものを使用してください。

＜安全上の注意＞

○取扱中はできるだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて保護具を着用してください。

○目に入った場合は，ただちに清浄な水で最低１５分間，目を洗浄した後、直ちに眼科医の手当を受けてください。

○粉塵等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。

○飲み込んだ場合は清浄な水で口の中をよく洗浄し、直ちに医師の手当を受けてください。

○取り扱い後は手洗い及びうがいを十分行ってください。

○飛散した材料は、掃除機等で吸い取って回収してください。

○子供の手の届かないところに保管してください。

＜保管上の注意＞

○湿気を避け、パレットなどを敷き、床面より離して保管してください。

○開封した材料は早めに使い切ってください。

○製造年月日より、６ヶ月以内に使用してください。

＜輸送上の注意＞

○箱のつぶれ、袋のやぶれ、落下がないように荷崩れ防止等に配慮してください。

○降雨等の水ぬれに配慮してください。

＜廃棄上の注意＞

○産業廃棄物として、都道府県条例に基づき処理するか、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処理を委託してください。

その他各製品包装などに記載の注意事項に従ってください。

詳細な内容が必要な場合にはお問い合わせください。

本施工マニュアルの取り扱いについて

本施工マニュアルは、標準的な施工方法を示したもので、全ての現場に当てはまるとは限りません。各施工現場では、本施工マニュアルでは合致できない様々な状況が考えられますので、施工業者におかれましては、各々の現場状況にあった施工及び管理をお願いいたします。

※本記載内容は現時点での資料・データに基づいて作成しており、新しい知見により改訂されることがあります。

以上